

# 第1章

# 計画の策定にあたって

- 1 策定の背景と目的
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間
- 4 西東京市の概況
- 5 これまでの取組みの振り返り
- 6 今後取り組むべき課題
- 7 計画策定のポイント

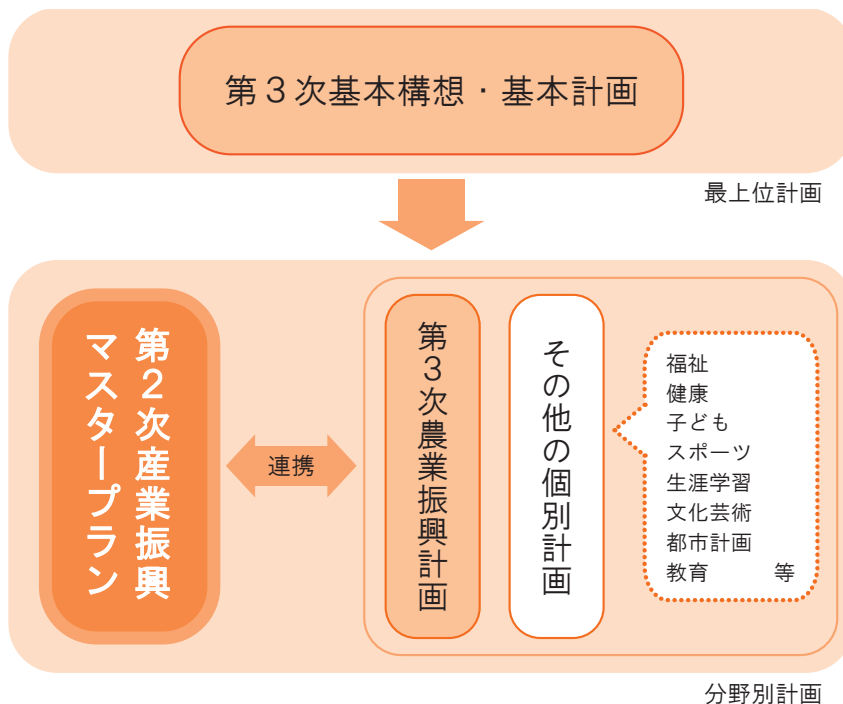
# 1 策定の背景 と目的

- ▶ 西東京市（以下「本市」という。）では、産業振興の礎として、平成23（2011）年3月に「西東京市産業振興マスタープラン」を策定しました。最初の3年間はアクションプラン、さらに平成26（2014）年度からは中期計画、令和元（2019）年度からは後期計画として、産業振興を目指した取組みを進めてきました。
- ▶ 令和2（2020）年から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、日本経済は大きく落ち込んだものの、経済活動の正常化によって国内景気は回復傾向にあります。一方で、中小企業においては厳しい経営状況が続いており、持続的な成長が求められています。
- ▶ また、我が国の総人口は、平成20（2008）年の1億2,808万人をピークとして減少しており、今後も人口減少と少子高齢化が進むと予想されています。これにより、地域産業においても、国内市場の縮小や医療・福祉・介護需要の増大、労働力不足等の影響を受けることが懸念されています。
- ▶ 国では、令和3（2021）年6月に「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」を閣議決定し、新型コロナウイルス感染症をきっかけに国民の意識・行動が変化したことを受けて、地域の将来を「我が事」として捉え、地域が自らの特色や状況を踏まえて自主的・主体的に取り組めるようになるための支援を実施しています。
- ▶ 本市の産業は、都心に近い立地と豊かな土壌を活かし、都市農業として育まれてきた農業や、5つの駅を中心に小売業・飲食店等が集積した商店街、独自技術を持った製造業をはじめとした中小企業等が、地域に根ざして発展してきました。一方、海外情勢の影響による原材料価格の高騰や原材料不足への不安、コロナ禍を契機とする個人の価値観やライフスタイルの変化、脱炭素化やDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進等の社会情勢の変化、宅地化に伴う農地の減少、個人商店の廃業等による空き店舗の増加等、市内産業を取り巻く状況は大きく変化しています。そのため、本市の地域資源を活用しながら、まちの魅力の醸成と課題解決を目指す取組みが求められています。
- ▶ 本市は、こころやからだの健康だけでなく、社会や経済、居住、教育といった生活環境も健康水準を向上させるための要素と捉え、地域やまち全体の「健康」を達成するため、「健康」応援都市の実現を目指しています。そのためにも、市内産業が抱える課題を解決し、市内における経済の好循環を促進する必要があります。
- ▶ このように、本市を取り巻く社会経済情勢や、国の産業関連の施策は大きく変化しています。また、地域経済を支える担い手と一体となった施策の推進も求められています。このような動向を的確に捉え、これまでの取組みの成果と課題を踏まえて、地域の特性やニーズ等を反映させた効果的な施策に取り組む必要があります。これらの背景を踏まえ、本市の産業を着実に振興させることを目的として、「西東京市第2次産業振興マスタープラン」（以下「本計画」という。）を策定します。

# 2

## 計画の位置づけ

本計画は、「西東京市第3次基本構想・基本計画」（以下「第3次総合計画」という。）を最上位計画とする、産業振興に関する分野横断的な計画です。分野別計画における産業振興の取組みとの整合性を意識するとともに、産業振興に関連する各種計画との連携を図りつつ、本市の産業振興の方向性を定めています。

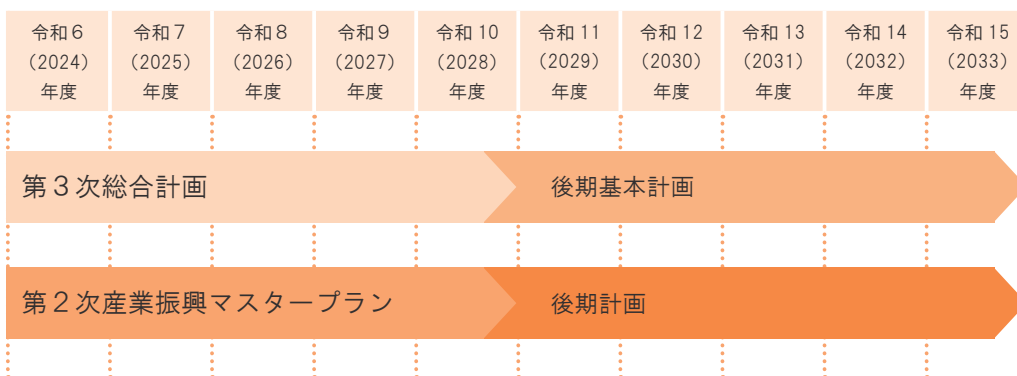


# 3

## 計画の期間

本計画の計画期間は、令和6（2024）年度から令和15（2033）年度までの10年間です。

なお、前期5年間の最終年度である令和10（2028）年度には、本計画の進ちょく状況や社会経済情勢の変化等を踏まえて、基本的な方向や施策及び事業の見直しを図り、令和11（2029）年度からの後期5年間を計画期間とする、「西東京市第2次産業振興マスタープラン後期計画」を策定します。

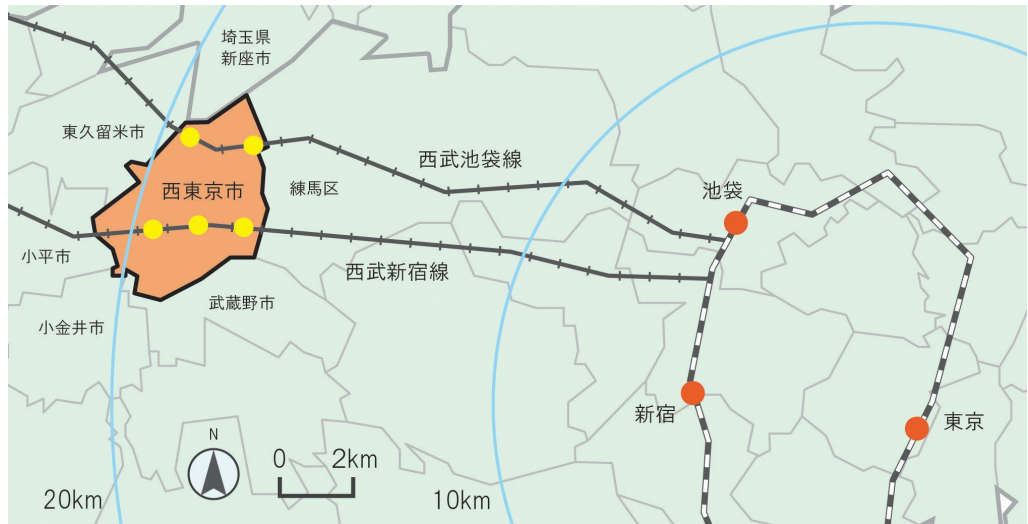


# 4 西東京市の概況

## ●市の位置

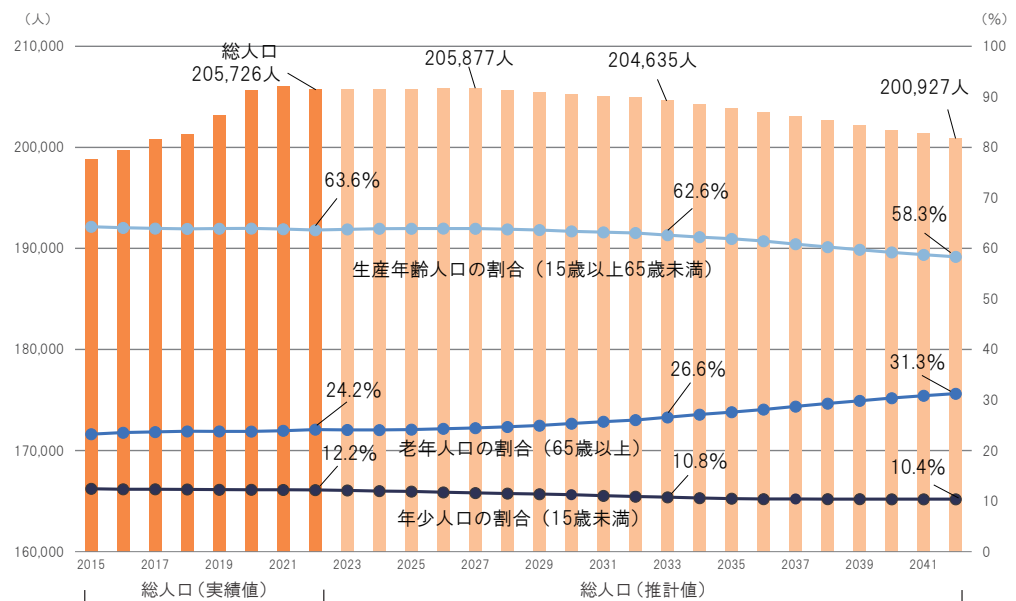
本市は、東京都心から約20km北西に位置し、北は埼玉県新座市、南は武蔵野市及び小金井市、東は練馬区、西は小平市及び東久留米市に接しています。

市域は東西4.8km、南北5.6kmにわたり、面積は15.75km<sup>2</sup>です。都心との近接性や交通利便性を背景に、高度経済成長期には人口が急激に増加し、住宅を中心とした都市が形成されてきました。



## ●人口

本市の人口は平成29(2017)年4月に20万人を突破し、令和6(2024)年1月時点の人口は205,899人となっています。西東京市人口推計調査報告書(令和4年11月)によると、本市の人口は令和9(2027)年まではおおむね横ばいの状態が続き、その後緩やかに減少し、本計画の最終年度である令和15(2033)年における人口は204,635人になると想定されています。



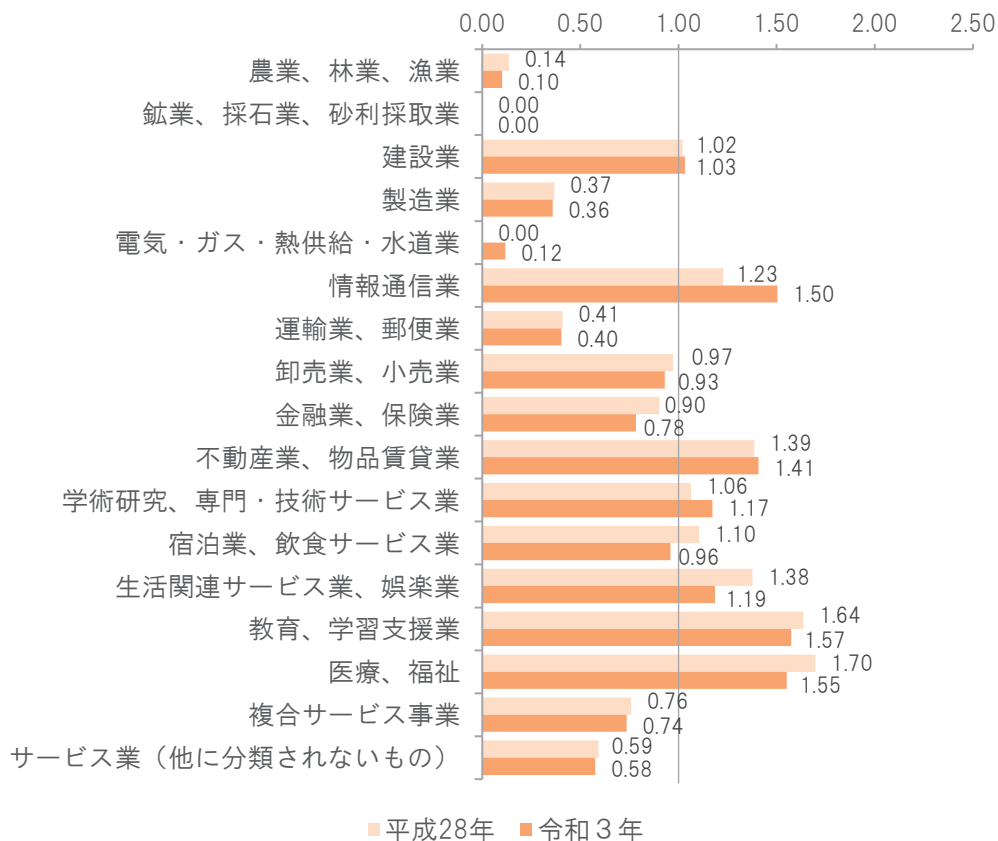
## ● 産業の主な特徴

本市の産業別就業者数の構成割合は、令和2（2020）年時点において、第一次産業が0.6%、第二次産業が13.5%、第三次産業が83.0%となっており、第三次産業の就業者数が8割以上を占めています。

また、従業者数が5人以下の小規模事業所が過半数を占めており、本市における産業大分類別の特化係数\*を見ると、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」、「情報通信業」等の産業が集積しています。なお、平成26（2014）年に施行された産業競争力強化法に基づいて策定し、国の認定を受けた「創業支援等事業計画」に基づき、起業・創業に関する支援体制が整備されてきたため、起業・創業に向けた動きが活発になっています。

本市は都心のベッドタウンとして宅地化が進められてきましたが、市内に残る農地では、キャベツや小松菜等の野菜のほか、果樹や花卉、植木等が生産されています。都心に近い立地と、少量多品目生産という特徴を活かしながら、新鮮で安全な農産物を提供しています。

＜西東京市における産業大分類別の特化係数＞



出所：経済センサス（平成28年活動調査、令和3年活動調査）

\*本市の全産業に占める各産業の割合÷全国の全産業に占める各産業の割合。なお、特化係数が1を超えている産業は、全国平均に比べて相対的に特化していると言える。

## 5

これまでの  
取組みの  
振り返り

本市の産業振興は、西東京市産業振興マスタープラン後期計画（以下「後期計画」という。）の施策体系に基づき、農業・農地に関する「農」分野、商業・サービス・ものづくりに関する「しごと」分野、商店街に関する「商店街」分野、横断的視点であり西東京市のイメージや魅力の向上に関する「西東京市ブランド」分野の4分野で取組みを展開してきました。後期計画の進ちょく状況を検証するにあたり、以下の3つの視点から評価を行いました。

- ① 4分野に設定した効果測定指標の目標値の達成状況
- ② 施策に対する農業者・事業者による評価（満足度及び重要度）
- ③ 各施策に位置づけた実行プログラム（41事業）の実施状況

※各分野の実施内容・評価の詳細は資料編 p.66～p.71 に記載。

## ● 農業・農地

## 持続可能な「農」が共生するまちをつくる

都市と「農」が共生し続けられるよう、農地の多面的な機能を活かした事業を展開するとともに、農業者との交流等を通じて、「農」に対する市民理解の促進に努めました。農業や農地に対する市民の関心をさらに高めるため、引き続き、市民理解を得るための取組みを進める必要があります。

評価の視点	実施内容・評価
① 効果測定指標	・ 市民の農業に対する満足度及び農地面積は目標値を下回っているが、市内における農業産出額は目標値を上回っている。
② 農業者による評価	・ 「農地の貸借における仲介の仕組みづくりの支援」については、重要度が平均より高く、農地の保全を推進するにあたり、引き続き農地貸借制度の周知とマッチングの実施が求められている。
③ 実行プログラムの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民が農業や農地、市内産農産物にふれる機会となる事業等については、新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止となった。</li> <li>・ 農のアトリエ「蔵の里」等を活用した農業学習等、農が持つ多面的な機能の理解を深めるための取組み等を実施した。</li> <li>・ 市内産農産物の普及啓発のため、ファームカーの活用やスポーツ施設を利用したマルシェの開催等、新たな取組みを実施した。</li> </ul>

## ● 商業・サービス・ものづくり

## 多様な「しごと」が生まれ循環するまちをつくる

中小企業や小規模事業者が安定的に経営を継続できるよう、また、新たな「しごと」の創出により地域全体が活性化するように、事業の継続・拡大に向けた様々な支援を行うとともに、起業・創業支援を進めてきました。「創業するなら西東京市」のブランドイメージが認知されつつあり、今後は、より幅広い世代に向けた創業支援や起業後の支援の充実に取り組む必要があります。

評価の視点	実施内容・評価
①効果測定指標	・市内事業者を対象とした各種セミナーの満足度や、事業による創業件数等、全ての指標で目標値を上回っている。
②事業者による評価	・「経営基盤の強化」及び「就労環境の整備」については、満足度・重要度ともに平均より高く、引き続き、取組みを継続していくことが求められている。 ・「新たな「しごと」の創出」についても満足度が高い。
③実行プログラムの実施状況	・人材育成や経営力強化に向けた各種セミナーの実施や、市内外へ事業者情報を発信する産業ニュース「西東京市匠 navi」を発行した。 ・「ハンサム・ママプロジェクト」や「ビジネスプランコンテスト」等、起業・創業のきっかけとなる事業を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症や物価高騰等の影響による厳しい経営状況を踏まえ、事業者ニーズに合わせた新たな融資あっせん制度の導入や持続的な経営を後押しする支援事業を実施した。

## ● 商店街

## 身近な「商店街」が暮らしを支えるまちをつくる

商店街の利便性向上やイメージアップのための取組みを進めてきましたが、商店会組織の解散や合併の動きのほか、個店の廃業や空き店舗の増加も見られます。今後は、消費者のニーズや消費動向に関する調査結果を活用し、多様な主体と連携しながら商店街の魅力向上に向けた取組みを推進し、地域住民とともに商店街のにぎわいをさらに高めていく必要があります。

評価の視点	実施内容・評価
①効果測定指標	・商店会数とチャレンジショップ事業の件数は目標値を下回っているが、買い物利便度は目標値を上回っている。
②事業者による評価	・「活力ある組織づくり」及び「新たな価値の創造」とともに、満足度が平均より低く、重要度が平均より高くなっており、今後、重点的に取り組んでいくことが求められている。
③実行プログラムの実施状況	・消費者のニーズや消費動向を把握するための調査を行った。 ・商店街の利便性やイメージの向上のため、商店街マップやフラッグ作成等による「見える化」を支援する商店街ブランドデザイン事業を実施した。

●横断的視点

## 魅力ある「西東京市ブランド」が輝くまちをつくる

地域への愛着を醸成するためのイベントの開催をはじめ、一店逸品事業やめぐみちゃんメニュー事業等の、「西東京市ブランド」のPR事業の新たな展開等に取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市内来訪者数は減少しました。今後は、様々な地域資源を有効に活用しながら、市内外の消費者の目を引く商品やサービスを創出し、西東京市の魅力を磨き上げていく必要があります。

評価の視点	実施内容・評価
①効果測定指標	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市内への来訪者数は目標値を大きく下回っている。</li><li>・「西東京市ブランド」の取組みであるめぐみちゃんメニュー事業のホームページ年間アクセス数は目標値をわずかに下回っている。</li></ul>
②事業者による評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・「観光まちづくりの推進」及び「イベント開催によるにぎわいづくり」については、満足度・重要度ともに平均より低く、今後は、取組みを見直し、より効果的な事業を実施することが求められている。</li></ul>
③実行プログラムの実施状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・めぐみちゃんメニュー事業では、市内の小・中学生が考案したメニューを販売する等、新たな取組みを行った。</li><li>・めぐみちゃんマルシェ等、市内産農産物をPRするイベントを開催したが、新たなマーケットを創出するためのイベントの開催には至らなかった。</li><li>・近隣市との連携によるスタンプラリー等、新たな観光事業を実施した。</li></ul>



## 6

## 今後取り組むべき課題

本計画を策定するにあたり、本市の産業振興を取り巻く社会経済情勢の整理及び後期計画の進ちょく状況の検証を行い、新たな課題を抽出しました。また、市内事業者を対象としたアンケート調査やヒアリング調査により、事業者が抱えている課題やこれからの産業振興に向けたニーズを把握するとともに、市民を対象としたアンケート調査により、消費者行動の実態や就業に対する意向等を把握しました。

これらの調査結果を踏まえ、本計画において取り組むべき課題を以下のように整理しました。なお、各分野における具体的な課題については、第3章で整理しています。

## ● 社会全体における課題

## SDGsの実現

SDGsは、平成27（2015）年に国連総会で採択された、誰一人取り残さない社会の実現に向けた「持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals」であり、貧困やジェンダー平等のほか、産業やまちづくり等の幅広い分野において、2030年までに達成すべき17個の目標を定めています。本市の産業振興においても、一人ひとりがSDGsを意識し、行動につなげていく姿勢が求められています。

## 推進 デジタル化の

IoT、ビッグデータ、AIの発展といった「第4次産業革命」による新しい技術の台頭によって、産業においても大きな変革期が訪れています。市内事業者においても、キャッシュレス化やDXの推進といった取組みとともに、デジタルデバイド対策等のデジタル化に伴う課題の解決も求められています。

## 対する取組み 気候変動に

気候変動対策として、脱炭素化の動きが世界各地に広がっています。本市においても「西東京市ゼロカーボンシティ」を宣言し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするための取組みを進めています。

また、脱炭素化と経済成長を両立して、経済社会システム全体の変革を目指すGX（グリーントランスフォーメーション）の推進も必要です。

## 変化への対応 コロナ禍による

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、オンラインツールの普及による働き方の変化のほか、消費者の意識や消費行動の変化等、広い範囲に大きな変化をもたらし、本市の事業者にも様々な影響を及ぼしました。こうした変化に対応するとともに、ポストコロナ時代を見据えた取組みを進めていくことが重要です。

## ● 市内における課題

### 次代を担う人材の確保と育成

全国的に生産年齢人口が減少する中で、本市においても人材の確保と育成が課題となっています。そのため、雇用と就業の双方の視点から支援を行うことが必要です。

また、市内の事業者や農業者、商店街における個店等の安定した事業継続のため、後継者の育成や事業承継に対する支援も求められています。

さらに、事業者や企業、大学、地域住民、学生、自治体等の多様な主体を結びつけるコーディネーターの育成も重要となります。

### 産業に関わる多様な主体の連携強化

事業者同士が幅広く交流することは事業の円滑化や拡大等につながり、また、事業者と事業者以外の主体（大学や地域住民等）とのつながりは、市内における産業振興の取組みの支えとなります。そのため、事業者同士の同業種・異業種交流のほか、事業者や農業者と、大学、企業、地域住民、学生等の市内の多様な主体とのつながりをつくり、地域が一丸となって産業振興に取り組む体制を構築することが必要です。

### 積極的な情報発信

産業振興を推進するためには、本市の魅力を市内外に発信し、まちの知名度と存在感を向上させることが重要です。そのため、市報やSNS等の様々な媒体を活用し、市内の事業者や商店街、市内産農産物や特産品等のPRに積極的に取り組むことが求められています。

また、より多くの人に本市を訪れてもらうためには、多摩六都科学館や下野谷遺跡等、既存の地域資源の魅力発信も重要です。

### 市内経済の循環の促進

本市は都心へのアクセスが良いことから、市民の消費需要が都心に流れやすいという課題を抱えています。そのため、市内の店舗や商品、サービスの魅力や利便性を向上させ、市内で買い物やサービスを利用する人を増やすことで、市内経済の好循環を今まで以上に促進する必要があります。商店街の活性化や消費者ニーズへの対応、市内産農産物の消費促進と販路拡大、市内全域における魅力的な店舗、商品、サービスの展開等、様々な方向から市内消費の増加に向けた取組みを進めていくことが重要です。

## 7

計画策定の  
ポイント

本計画の策定にあたっては、以下のポイントを重視しています。

## 1 計画の視点

産業振興と人々の暮らしが密接につながっていることを示す計画をつくります。

## 2 計画のあり方

事業者だけではなく、市民や在勤・在学者等も含めた、本市の産業に関わる全ての主体を対象とする計画をつくります。

## 3 取組みの進め方

庁内各部署や、本市の産業に関わる多様な主体による分野を超えた連携によって、取組みを進めていきます。

## コラム

### アニメキャラクターが多摩地域の魅力を発信！

北多摩5市（西東京市、小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市）は、多摩地域の豊かな自然や多様な観光資源を活かして、観光で訪れた人々に多摩の魅力を伝え、「また多摩地域に行きたい」と思ってもらうための取組みとして、『TAMA☆ろくと巡礼物語！』北多摩TOKYOアニメスタンプラリー」を令和2（2020）年から毎年開催しています。

このイベントでは、北多摩5市の観光施設や神社仏閣、駅、商店街等の名所をモチーフにしたオリジナルキャラクターを制作し、スタンプラリーや御朱印集め等を開催しています。西東京市のキャラクターは、多摩六都科学館を訪れる人々に加護を与える天使のステラ（多摩六都科学館）、縄文時代と現代を行き来できる特殊な能力を持つ椎太（西東京市郷土資料室）、まちの良さを伝えるために情報発信を続けているテル（まちテナ西東京）、一見クールだが心優しい宮司の氷神蒼（東伏見稻荷神社）、人々の声を龍神に伝える巫女の五龍命（田無神社）、笑顔で人々を幸せにする30000 系列車・スマイルトレインのトレーヌ（西武新宿線田無駅）であり、それぞれが魅力的な個性を持っています。

令和5（2023）年度のアニメスタンプラリーは、台紙とアプリのハイブリッド方式で実施しました。開催期間中には多くの方にご参加いただき、北多摩5市のスポット巡りを楽しんでいただきました。今後も北多摩5市で連携し、アニメスタンプラリー等の取組みを通じて、より多くの方に多摩地域の魅力を伝えていきます。



ステラ



椎太



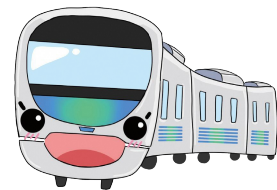
テル



氷神蒼



五龍命



トレーヌ

©TAMA☆ろくと巡礼物語 2023